

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 27 日現在

機関番号：32634

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26284022

研究課題名(和文) コンテンポラリーダンスのワークショップと即興の分析による舞踊美学の再構築

研究課題名(英文) Reconstruction of Dance Aesthetics via Analyse of Workshop and Improvisation in Contemporary Dance

研究代表者

貫 成人(Nuki, Shigeto)

専修大学・文学部・教授

研究者番号：80208272

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、現在最先端の舞台芸術であるコンテンポラリーダンスにとって、作品制作・後継者養成など、基幹的役割を果たす即興とワークショップの実態を解明し、それによって、コンテンポラリーダンスという新たなアートが、バレエやモダンダンスなど、学校教育や劇場プログラムなどにおいて制度化されている舞踊がもつ制度的・美学的制約を超えて、新たな身体アートとその観客を創成し、かつ、創成し続けているメカニズムを、コンテンポラリーダンスにおける国内外の代表者へのヒアリング、また、ワークショップ実施を通じて、身体技法や美意識、演出方法の創成、稽古場の社会的政治的構造、さらに経済的效果など重層的な観点から解明した。

研究成果の概要(英文)：In order to clarify the mechanism, with which the “contemporary dance”, the most advanced stage art of today, has broken the institutional fetter of the traditional stage art, such as classic ballet or modern dance, which is already established in school education or in theater programs, to keep creating a new aesthetics of bodily performance and its audience, this research project has shed light on the various ways in which the bodily techniques are handed over, and a new bodily movement, mise-en-scene or aesthetics emerge in this process, or the sociological-and political human relationship, or even economic performance is established in workshop, through interviews of the representing leaders of contemporary dance, and also by operating workshops.

研究分野：舞踊美学、哲学

キーワード：コンテンポラリーダンス ワークショップ 即興 身体技法 美意識 稽古場の政治学 経済効果 演出

### 1. 研究開始当初の背景

コンテンポラリーダンスにおいて、即興、ワークショップは核心的な意義を持つ。モダンダンスやバレエなど既存の身体技法を用いず、また、出演者の個性を表現するため、多様な背景をもつ出演者を必要とし、出演者の募集、選抜、育成、訓練のためにワークショップが、素材創出、作品制作過程において即興が主な手段としてもちいられるからである。

にもかかわらず、コンテンポラリーダンスにおける即興、ワークショップについての包括的な研究は国内外に見られず、その欠を補うために本研究を構想した。

### 2. 研究の目的

(1) コンテンポラリーダンスにおいては、バレエやモダンダンスにはない機能を即興とワークショップがもつため、そのことを解明するために、コンテンポラリーダンスの代表的作家における即興とワークショップの実態を具体的に分析することによって、コンテンポラリーダンスの本質特性を、作品の表面上の特徴を超えた、作品制作上演の実質的次元から把握理解しうることが予想された。それによって、舞踊美学の再構築を行うことが本研究の第一の目的であった。

(2) 一方、コンテンポラリーダンスは、中学校におけるダンス必修化が象徴する通り、全国の教育現場などにおいても活用されている。その効果などを実質的に把握調査し、さらに、本研究成果を現場に還元するために、望ましいワークショッププログラムを構築することが本研究の第二の目的である。

### 3. 研究の方法

(1) W. Forsythe, *Improvisation Technologies*, 近藤良平『からだと心の対話術』、Keersmaeker, *A Choreographer's Score*、また、C.J. ノヴァック『コンタクト・インプロヴィゼーション』、譲原晶子『踊る身体のディスクール』など、身体諸技法や即興、ワークショップについての先行研究やすでに存在する記述に関する調査分析をおこなった。

(2) その成果を踏まえたうえで、国内外を代表するコンテンポラリーダンスの作家、あるいはダンサーへの聞き取り、研究代表者、分担者による、諸ワークショップへの参与観察、即興に関するワークショップの企画運営を実際に行い、参加者募集・訓練・作品制作、経済効果における即興とワークショップの意味を解明した。

(3) コンテンポラリーダンスにおける即興とワークショップの特性を浮き上がらせるために、日本舞踊、クラシックバレエ、舞踏

などにおける事情を、やはり、ヒアリングや参与観察、ワークショップ運営によって、また、舞踊以外の場面での即興・ワークショップのあり方と比較するために、写真や美術などにおけるそのあり方や議論との比較を試みる。

(4) 身体訓練や作品制作・上演のあり方についての事情は、文化的相違があることが予想されるため、日本国内の作家だけではなく、諸外国の作家やカンパニーにおける即興やインプロヴィゼーションについても調査分析する。

(5) 上記を踏まえたうえで、望ましいワークショッププログラムを構築し、実際に運営する。

### 4. 研究成果

(1) 本研究においては、文献調査に加え、1980年代以来、国内外のコンテンポラリーダンス作家である、W.フォーサイスやピナ・バウシュ、フィリップ・ドゥクフレの各関係者やカンパニー所属ダンサー、また、伊藤キムや KENTARO!!、島地保武、鈴木ユキオ、日本舞踊の花柳基、ワークショップ運営者への聞き取り調査、コンテンポラリーダンスやクラシックバレエ、舞踏などのワークショップへの参与観察、運営、美術や写真、地域芸能(「民俗芸能」)など、他分野におけるそれとの比較、また、ワークショッププログラムの作成・実施などをおこない、数多くの事例を蓄積した。

(2) その結果たとえばスイス、ローザンヌ・バレエコンクールのコンテンポラリー部門指導者タマシュ・モリッチのワークショップなどに見られるように、特定の技法の習得を目指すバレエなどのワークショップとは異なり、たとえばクラシックバレエとはまったく異なる原理にもとづく動きを修得するために、参加者が持っている技法習慣をまず破壊する試み、参加者ごとに異なる動きを誘発する条件・状況だけを指定する試み、など、さまざまな技法をあらかじめ身につけ、あるいはそもそもダンス技法を持たない参加者における身体の自発性を解放するさまざまな工夫が見られ、また、身体の動きを誘発する多様な「わざ言語」があることがわかった。

(3) 「即興」という概念の理解に関しては、まさにこの手法をコンテンポラリーダンスに取り入れた第一人者であるピナ・バウシュのダンサーが、バウシュにおける即興性を否定するなど、ダンサーや作家によって理解に大きなバラツキがあることがわかった。「即興」が、思考を媒介しない、時間をおかない即時性、などを連想させるためであり、逆に、彫刻や絵画などにおける「即興性」とはなにか、などが問題となった。とはいえ、「振付」と訳される「Choreography」が元来、また語

源上も「記譜法」を意味するのに対し、「Improvisation」は、「予見不可能性(in-providere)」を意味し、それゆえ、音楽演奏や舞踊のように、あらかじめ作家の指示が行われるのが普通であるようなジャンルにおいて、予備的指示がない実演が、特殊なものとみなされて即興とよばれるのであり、したがって、実演にいたる時間の多寡や知的思考の有無は非本質的であることが明らかになった。バレエやモダンダンスに対して、ユニットや作家、作品ごとに新たな身体動作や美意識を見いださなければならぬコンテンポラリーダンスにとって即興が核心的な意義を持つ理由、メカニズムがこうして明らかになった。

(4) 公演機会や観衆の多いバレエ、公的支援が日本においても充実しているモダンダンスと比べ、公演機会も助成もすくないコンテンポラリーダンスの作家にとって、大規模な組織や会場を必要とせず、また、比較的安価に行われるワークショップは、生計を営む上でも重要だが、現実に実行するためにかかる経費、参加するダンサーの支払い能力、ワークショップ指導者への手当との間には、大きなギャップがあり、経済的効果という観点からは大きな問題があることがわかった。

(5) 以上の観察分析の結果、バレエは既存のバの多様な変形・創出によって成立し、したがってそれを体系的に教授する学校、長年の教育を受けたダンサー集団と切り離せないバレエ、作家ごとに固定したメソッド、それを教えるスクールと固定したダンサー集団によるモダンダンスに対して、技法の多様性や技法のない身体すら容認するコンテンポラリーダンスは、カンパニーダンサーの流動性が高く、ユニットすら生成消滅し、むしろプロダクションごとに出演者が変わり、学校やスクールの存在とは相容れないだけでなく、逆に、固定した技法・場所・人脈はもたず、出演者、観客など、多様な参加者が多様なままに、相互に作用しあうなかで、絶えず新たな美意識や技法、作品が生まれるようなシステムがコンテンポラリーダンスであることが明らかになった。この点から、逆に、コンテンポラリーダンスがその生誕地である日本や西欧を超えて、アジア、アフリカ各地など全世界的に散布した「ワールドダンス」化が進行することの必然性も理解しうる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 9件)

貫 成人「ドイツ文化という瞞着：日独文化構造比較試論」『専修人文論集』100巻、2017年3月、査読無、138頁～160頁

石淵聡「時間-空間芸術としての舞踊と音楽の関係性」大東文化大学紀要第55号(人文科学)、査読無、2017年3月 pp16-30

貫 成人「コンテンポラリーダンスの身体とヨーロッパ諸都市の文化構造」『人文科学年報』第46号、2016、専修大学人文科学研究科、査読無、131～143頁。

石淵聡「舞踊におけるリズムの問題」大東文化大学紀要第54号、査読無、2016年、pp.15-28

川島京子、「映画『ポルティチの唾娘』(1916)における脚色 舞踊史研究の観点から」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』、査読無、第3分冊第61輯、p.5-18、2016年

貫 成人「おどりを翻訳する：バレエと暗黒舞踏の事例から」日独文化研究所、査読無、2015年12月

貫 成人「舞踊が健康に資する三つのメカニズム」『環境と健康』Vol.28, No.4, 共和書院、2015年3月、査読無、432～436頁。

Harumi Niwa, Issei Suda, Aperture Magazine, NY, 査読無し、issue #219, 2015, pp.86-93

Harumi Niwa, Naoki Ishikawa: Archipelago, Aperture Magazine, NY, 査読無し、issue #222, 2015, pp.118-125

〔学会発表〕(計 9件)

貫 成人、Enthusiasm in Silence: The Reception of Tenhi in Japan, International Conference, Claiming Contemporaneity, 2017年1月26～28日、Kampnagel, Hamburg, Germany.

副島博彦、Language and Choreography: The Case of Pina Bausch, in, International Conference, Claiming Contemporaneity, 2017年1月26日～28日、Kampnagel, Hamburg, Germany.

川島京子、「日本バレエの幕開け 白系ロシア人エリアナ・パヴロバの功績」、東京外国語大学言語文化学部主催『春の芸術祭』、2015年12月18日、東京外国語大学府中キャンパス

貫 成人「ヨーロッパ 2014/15：コンテンポラリーダンス-三つの新展開、五つの都市」ダンスカフェ、2015年11月13日、あうるすぽっと会議室(東京都)

貫 成人 Workshop, Hildesheim, 2015年7月27～30日、Germany.

貫 成人 Zur Choreographie des Atmens: Ein Ansatz zur phänomenologischen Analyse der Atmung im Tanz, in Tagung: Atem / Atmen, Hildesheim, 2015年7月5日、ドイツ。

貫 成人 Leiblichkeit im Tanz, im Philosophisches Kolloquium, Hildesheim, 2015年6月11日、ドイツ。

貫 成人、Denken im Tanz,

Forschungs- kolloquium, Hildesheim,  
2015年1月15日、ドイツ。

貫 成人、Dance as Complex System,  
Colloquium, Berlin Freie Universität,  
2014年11月27日、ドイツ。

〔図書〕(計4件)

尼ヶ崎 彬『いきと風流：日本人の生き方  
と生活の美学』大修館2017年、279頁。

貫 成人「身体の拡散とダンスの豊穡化」  
『Who Dance? 振付のアクチュアリティ』、早  
稲田大学坪内博士記念演劇博物館、248頁、  
82～92頁、2015年。

尼ヶ崎 彬「ダンスの場所 偏在から遍  
在へ」、『Who Dance? 振付のアクチュアリテ  
ィ』、早稲田大学坪内博士記念博物館248頁、  
182～191頁、2015年。

渡沼玲史、「振り付けなきダンスのための  
振り付け：フォーサイスとダンスの欲望」  
『Who Dance? 振付のアクチュアリティ』、早  
稲田大学坪内博士記念博物館、248頁、2015  
年、148～157頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.cdr-net.com/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

貫 成人 (Nuki Shigeto)  
専修大学・文学部・教授  
研究者番号：80208272

### (2) 研究分担者

副島 博彦 (Soejima Hirohiko)

立教大学・文学部・教授  
研究者番号：301544694

川島 京子 (Kawashima Kyoko)  
早稲田大学・文学学術院・助教  
研究者番号：10409732

渡沼 玲史 (Watanuma Reishi)  
一橋大学・大学院法学研究科・助手  
研究者番号：50419751

尼ヶ崎 彬 (Amagasaki Akira)  
学習院女子大学・国際文化交流学部・教授  
研究者番号70143344

石淵 聡 (Isibuchi Satoshi)  
大東文化大学・文学部・准教授  
研究者番号：80308155

島津 京 (Shimazu Misato)  
専修大学・文学部・准教授  
研究者番号：80401496

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

### (4) 研究協力者

丹羽晴美 (Niwa Harumi)  
岡見さえ (Okami Sae)